

第 123 号

育成会 会報

令和7年度版

発行所

一般社団法人
広島県手をつなぐ育成会広島市西区打越町17-27
育成会総合福祉センター内
TEL (082)537-1773
FAX (082)225-7555
編集責任 金子麻由美

第50回広島県知的障害者福祉大会・ 第23回はつらつ大会(本人大会)三原・竹原大会の開催にあたって

第50回広島県知的障害者福祉大会実行委員長 (三原市手をつなぐ育成会会長) 岡田 雄幸

令和7年11月
30日(日)に、三
原市芸術文化セ
ンターポポロにお
いて開催する第50回広島県知的障害者福祉大会(一
般大会)並びに第23回はつらつ大会
(本人大会)は、三原市と竹原市の育
成会が共催する運びとなりました。第1回大会が開催された50年前の
知的障害者と地域社会との関係は、
現在とは大きく異なり、多くの知的
障害者は大規模な福祉施設や養護施
設に入所し、地域から切り離された
生活を送っていました。こうした福祉
政策が当時の中心であり、家族の負
担軽減や保護・収容の観点が重視さ
れていたと言えるでしょう。したがっ
て、教育や就労の支援よりも、施設内で生活を整える、作業をするとい
った管理的な支援に偏っていたと思
います。社会全般も知的障害に対する理解
は浅く、地域住民からの支援・協力
も乏しく、孤立や差別を感じながら
生活されていた人も多くおられたの
ではないでしょうか。したがって、知
的障害者が、地域の行事や活動に参
加することもなく孤立した生活を強
いられていたと思います。あれから50年、今では知的障害者
の地域移行(脱施設化)やインクルー
シブ教育が徐々に進み、地域で共に
暮らすという考え方が広がってきて
います。こうした中で、私たち育成会
会員は、これから未来に向かって何
をどのようにしていけばいいのでしょ
う。障害のある家族を抱えながら、

「皆とふれあい楽しみましょう」

たいかいげん ち じつこういんちよう
はつらつ大会現地実行委員長たけはらし て いくせいかいほんにん ぶ かい かいがいちよう かきうち り いちろう
竹原市手をつなぐ育成会本人部会すずらの会会長 垣内 理一郎みな がつ にち だい かい たいかい ほんにんたいかい み はら たけはらたいかい かい
皆さんこんにちは。11月30日に第23回はつらつ大会(本人大会)三原・竹原大会を開さい こんかい じ ぶん おち つた
催します。今回のテーマは「自分の思いを伝えるために」です。こんかい わ ぶん か かい がくしゅう かん
今回は、3グループに分かれます。分科会①「学習」、②「エンジョイ」、③「観
光」です。ひるきゅうけい み はらし たけはらし じぎょうしょ かつ ほんばい たの
昼休憩には、三原市・竹原市の事業所の方が販売をします。楽しみにしていただき
い。かいがいしき へいかいしき いっぱんたいかい いっしょ ない おこな み はらしちよう たけはらしちよう
開会式と閉会式は、一般大会と一緒にホール内で行います。三原市長さん、竹原市長
さん、そして皆さんと出会えることを楽しみにしています。何を目指して、何を夢見て生きて行
けばいいのでしょうか。障害のある方
が、親亡き後も地域で豊かに生活で
きる社会をどのようにして築けばよ
いのでしょうか。
今大会のメインテーマを「明日に
向かってひろげよう!」と掲げ、誰もが安心して豊かに暮らせる地域づく
りを、明日に向かって広げられるよ
う希望に満ちた大会にできればと思
っています。
大会実行委員一同、多くの方のご
参加をお待ちしております。

第50回広島県知的障害者福祉大会・ 第23回はつらつ大会(本人大会)三原・竹原大会あいさつ

大会会長(広島県手をつなぐ育成会会長) 金子 麻由美



第50回広島県知的障害者福祉大会並びに第23回はつらつ大会(本人大会)を、やっさ祭りで馴染みの三原市で開催いたします。この度は、三原市と竹原市二つの手をつなぐ育成会に主管していただきます。

また、本大会は、記念すべき50回目の節目を迎えました。これもひとえに、これまで知的障害のある方々の福祉向上に向けて、一丸となつてたゆまず尽力されてきた先駆者や関係機関の皆様、地域の皆様の温かいご支援の賜物であり、ここに厚くお礼申し上げます。

今年度の一般大会のテーマは、「ライフステージを豊かに生きるために」です。障害のある人たちが、乳幼児期から高齢期に至るまで、それぞれのライフステージにおいて、その人らしく、心豊かな生活を送るためには、何が必要でしょうか。

「こころのボーダーをなくす地域づくり」のお話や、行政と各ステージの保護者の方々の座談会を通して、それぞれの思いを知り、ともに考え、行動していける大会となることを願っています。

また、はつらつ大会(本人大会)では、「自分の思いを伝えるために」というテーマを掲げました。

本人自身が意思や希望を言葉や表現で周囲に伝えることは、本人らしい暮らしを送る上で欠かせません。本人の「声」に耳を傾け、その「思い」を尊重する社会へとつながるよう、私たちも大いに努力していきたいものです。

今年も、はつらつ大会(本人大会)では、行政との話し合いや、グループワークを予定しており、三原やつさを踊ったり、かぐやパンダややつさだるマンと一緒に遊んだりの交流会や、竹原まちなみ観光などから、好きなものを選択して参加していただきます。楽しい思い出の一ページとなることでしょう。

本大会を通して、障害のある人が安心した豊かな暮らしができ、ああ良い人生だったと思えるための、有意義な機会となることを切に願って、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

三原市手をつなぐ育成会について

今、本会では若い仲間が増えていきます。

1958年「手をつなぐ親の会」として発足し、当時は親・教育・福祉現場の支援者を中心に活動していたそうですが、諸事情で休止状態でした。この状況を憂慮した会員や支援者が本会の再活動をしたのが2022年のことです。

まず若い世代に声かけをして、茶話会から始めました。しかし、参加者から「育成会ってなあくに？」と知らない人がほとんどで、先輩会員にその歴史を聞く場を持ちました。その後、年間行事に講演会を計画しました。初回は「親亡きあと」をテーマに金子会長にお願いしましたが台風接近で突如中止、後日開催となりました。しかし、予想以上の参加者に安堵しました。茶話会も回を重ねる度に会員同士のつながりが強くなり、情報の共有にはグループLINEを活用し、活発な場となっています。

今回、50回大会を竹原と一緒に主管するというお話をいただきました。「えっ？私たちにできるの？」と戸惑いと不安ばかりでした。が、49回廿日市・大竹大会に多くの会員が参加して感想や意見を交換しながら、少しずつイメージがわいてきました。一方、地域で本人活動はどうすればいいのか糸口が見つからず、経験の深い竹原市手をつなぐ育成会の本人部会を見学させていただいた

ことで、今は定期的に集まりパネルづくりに取り組んでいます。

大会の主管を機に、竹原市手をつなぐ育成会の皆様と共に活動するご縁をいただきました。当日は、感謝の気持ちと笑顔で皆様をお迎えしたいと思っています。

歩み始めて間もない私たちです。回り道や寄り道をしながら、親子一緒にみんなであつて「てくてく」と前へ進みたいと思いを強くしていきます。そこで、「てくてく」と本会の愛称を名付け、ロゴを作りました。活動拠点「てくてくハウス」で、月に1回親子のグループ活動や茶話会を行なっています。いつ来ても、誰が来てもウエルカム！これから、色々楽しいことをしてみよう！と、夢をいっぱい抱いているところです。



てくてくハウスにてパネル作成中

第50回広島県知的障害者福祉大会 三原・竹原大会 第23回はつらつ大会（本人大会） 三原・竹原大会

【テーマ】

メインテーマ 「明日に向かってひろげよう！」

○ 一般大会 「ライフステージを豊かに生きるために」

○ はつらつ大会（本人大会） 「自分の思いを伝えるために」



【大会日程】

<一般大会>

9:30	9:45	10:00	10:45	12:00	13:00	14:30	15:00
受付	セオレモブニング	開会式	トーク 「こころのボーダーをなくす 地域づくり」	昼食 休憩	座談会 「ライフステージを豊かに 生きるために」	閉会式 大会決議	

<はつらつ大会（本人大会）>

9:30	9:45	10:00	10:45	12:00	13:00	14:30	15:00
受付	セオレモブニング	開会式	分科会① 行政との話し合い 分科会② エンジョイ 三原やっさ	昼食 休憩	分科会① グループワーク 分科会② かぐやパンダ・ やっさだるマンと遊ぼう	閉会式 大会決議	
		出発:分科会③ バス移動～竹原まちなみ観光	昼食・休憩	帰路～バス移動	帰着		
	9:45		12:00	13:00	14:00	14:30	15:00

【場所】

三原市芸術文化センター ポポロ 〒723-0051 三原市宮浦二丁目1番1号 電話 (0848) 81 - 0886

● 一般大会会場

三原市芸術文化センターポポロホール

● はつらつ大会（本人大会）会場

三原市芸術文化センターポポロリハーサル室・ホワイエ

たけはら町並み保存地区（バス観光）

【趣旨】

昭和37年に広島市で第1回大会が開催され、このたび、第50回の大会となる広島県知的障害者福祉大会三原・竹原大会は、長い歴史を積み上げた節目の大会となります。

この間、日本の福祉サービスは、高齢者、児童、障害者など対象ごとに充実・発展してきました。障害があってもなくても人は、幼児期、学童期、青年期、成人期、高齢期の過程の中で生涯をむかえることになります。それぞれのライフステージを豊かで充実した生き方ができれば、良い人生であったと言えるでしょう。障害のある方が主体的に自分のやりたいことをやり、生き活きと生活をするためには何が必要なのでしょう。

障害のある人が自分の意志で決定し、自分らしく暮らすためには、何を変え、何を推進していく必要があるのでしょうか。

一般大会やはつらつ大会（本人大会）をとおして、みんなで考え、意見を交わすことによって“真の共生社会の実現”に繋がる大会にしたいと思います。

【一般大会】

トーク

テーマ 「こころのボーダーをなくす地域づくり」

～統合（integration）から包摂（inclusion）まぜこぜ社会の準備～

講師 公益財団法人日本ダウン症協会理事 水戸川 真由美 氏

聞き手 若者活動スペースちゃんくす代表 西上 忠臣 氏

【座談会】

テーマ 「ライフステージを豊かに生きるために」～地域での支えについて考える～

コーディネーター 若者活動スペースちゃんくす代表 西上 忠臣 氏

公益財団法人日本ダウン症協会理事 水戸川 真由美 氏

登壇者 三原市保健福祉部 部長 藤井 宏道 氏

RABBION代表

〈竹原市地域支えあい推進課地域共生社会推進アドバイザー〉

高原 伸幸 氏

学齢期保護者 住谷 明希 氏

松永 ひとみ 氏

成人期保護者 宮田 文子 氏



“全員が主役”の社会づくりを！

公益財団法人日本ダウン症協会理事 水戸川 真由美

こんにちは、水戸川真由美です。

このたび「第50回広島県知的障害者福祉大会三原・竹原大会」にて、「トーク」をさせていただくことになりました。

三原市は、私にとって心の奥深くにある大切な場所です。夫の実家があるため、家族で何度も訪れ、あたたかく迎えていただいた記憶が今も鮮明に残っています。瀬戸内のやさしい風景と、人と人との距離の近さが、いつも心をほどこしてくれる場所でした。

今回の講演では、「こころのボーダーをなくす地域づくり」というテーマでお話しします。私は現在、脳性麻痺のある娘は同じ区内で入所をしていますが、27歳になったダウン症のある息子と共に暮らしながら、ピアコーディネーターとして出生前検査に関わる方々の相談に中立的な立場で向き合っています。また、映画や舞台、ファッションショーなど、エンターテインメントの現場で多様な人が輝く姿をプロデュースしてきました。

障害があるからといって、夢をあきらめる必要はない。そんな強い思いを持つ仲間たちと共に、“全員が主役”の舞台を創り出してきました。そこには、笑顔、葛藤、そして確かな成長があります。

地域の中でも、こうした小さな“気づき”や“つながり”が広がることで、誰もが安心して自分らしく生きられる土壌が生まれていくと信じています。

当日は、皆さんと共に、そんな社会づくりの一步を踏み出せる時間にしたいと願っています。

ぜひ会場でお会いしましょう！



第50回広島県知的障害者福祉大会のコーディネーターとして

若者活動スペースちゃんくす代表 西上 忠臣

第50回という節目の年にこのような大役。戸惑いもありながらお声かけいただいた岡田実行委員長をはじめ、運営委員の皆様には感謝申し上げます。今回、午前中のトークでは、三原が第二の故郷と言われている水戸川真由美さんの素敵な実践をお聞きする聞き手として、午後からは、三原市保健福祉部部長の藤井宏道さんとRABBION代表・竹原市地域支えあい推進課地域共生社会推進アドバイザーの高原伸幸さんをお招きして座談会のコーディネーターを務めます。

ご自身が書かれているように、3人のお子さんがいる水戸川さんは、仕事と子育てを両立させながら、その経験をダウン症協会や産後ドゥーラ、東ちづるさんを理事長とするNPO法人Get in touchの理事も務めています。地域の中では孤立してしまいそうな当事者や家族ですが、このような活動をしながら、家族がつながり続けるための場や、当事者が活躍するステージを作っています。バイタリティーはどこから来るのか、全国を飛び回りながら、視線の先には何を見ているか、広島にもたくさんの資源がありますが、その参考にもなるようなお話を聞けると思います。

また、午後からは、三原・竹原の育成会の会員のご家族の方が登壇されて、自身の経験をお話しいたぎます。子育てをする中で、葛藤や悩み、嬉しかったことなど、そのご家族ならではの話を聞きしように思っています。また、就学前、就学中、就学後…と成長していくお子さんのライフステージにあわせてお話しいただこうと思っています。参加される多くの方も、自身の経験にあるような悩みを、行政の方も交えて一緒に考えていこうと思っています。

福祉というのは、自分らしく当たり前生きていくための考え方だ、と感じています。しかし、「自分らしく」って言葉にできにくい。言葉で伝えられないと、まわりが気づかないと、いつの間にか孤立することもあります。一方的にメッセージを出すだけでも、受け取るだけでもいいかもしれませんが、それでは不十分です。対話すること。じっくりと聴くこと。相手にあわせて返すこと。そうやって自分の生き方を地域の中で決められること。「自分らしさ」というのは、交流を通じて初めてなされる業（わざ）だと感じています。残念ながら、対話が十分になされているか？という世界を見渡してもそうでないような事象が多いです。福祉に関わっていると、地域社会の中で気づきを得られます。そういう考え方があったのか、そういう視点を持っていたのか、そういう感じ方をしているのか。気づいてじっくりと交流してみると、それが人にやさしい地域づくりに、ひいては平和に貢献していると感じることが頻繁にあります。実は、それは日常にいつもあることが必要です。当日だけでなく、様々なところで対話が生まれるような、そういう会にしたいと考えています。三原でお会いしましょう！

竹原市手をつなぐ育成会の活動「本人主体の活動を支える」

竹原市手をつなぐ育成会会長 高下 美智江

皆さん、こんにちは。いよいよ大会が近づいてきました。申し込み忘れはございませんか？

はつらつ大会の企画は、竹原市手をつなぐ育成会本人部会です。本人部会が主体に考えました。

当会では、毎年年末には来年度の活動したい一覧を提出していただき、支援者確保に奔走しています。時には集まっておしゃべりするだけの時もありますが、余暇活動を考えて実現していくエネルギーに応えていきたいと思っています。

本人部会は、毎週末に集まり、パソコン教室、絵画教室、習字教室、生け花教室を行っています。また、親子部会もあり、こちらは年2～3回親子でゲームなどで楽しみますがクリスマス会がメインイベントです。また、年2回会員や会員以外の方とも交流できるように3月・7月にスポーツ交流会を行います。皆さんが参加しやすいように少しずつ内容を考えていますが、とにかく本人さんたちの「楽しみたい！」が計画の中心です。



生け花教室
ステキな作品ができました



文字の練習にもなっている
習字教室



スポーツ交流会で
ボウリング！



市役所ロビーで
啓発活動

一緒に楽しむまじゅう～あすなろ太鼓～

平成16年、広島県立三原特別支援学校高等部に入学した同級生4名で「楽しめることをやりたい。」と立ち上げた太鼓チームです。「子どもたちに真っ直ぐに成長して欲しい。」との思いを込めて「あすなろ太鼓」と名付けました。

初めのころは、練習に集中できなかつたり心配なこともたくさんありましたが、上川博子先生の温かいご指導のもと、20年続けることができました。昨年は、尾道市向島町にある尾道市民センターむかいじまにて20周年記念演奏会を開催し150名の方々にご来場いただきました。メンバー一同大きな達成感を味わうことができました。現在は、新しいメンバーも加わり7名が月1回の練習を楽しんでいます。また、他のチームとの交流もでき「太鼓の輪」が広がっています。

11月30日に、皆さんの前で演奏することを楽しみにしています。一緒に楽しんでください。



育成会の保険制度について

問合せ先：広島県手をつなぐ育成会
事務局 082-537-1773

広島県手をつなぐ育成会には、互助制度と生活サポート総合補償制度の2種類の保険があり、どちらの制度にも加入することができます。

いずれも、知的障害児者の皆様に特化した保険で、ご加入に際し、健康診断や医師の診察は必要ありません。育成会の会員であれば、既往症をお持ちの方でもご加入できます。

入院補償(一部対象外のプランあり)、傷害(ケガ)の補償、他人への損害賠償がセットになった保険となっています。

それぞれの制度には、次のような特徴がありますが、知的障害児者の皆様が少しでも安全・安心して暮らせるような保険となっていますので、比較表を参考のうえ、ご加入をご検討ください。

○互助制度

保護者と同居されている方、対象者が未成年の方について比較的保険料も安くお勧めいたします。ただし、施設入所者、グループホーム利用者は、他人や物への損害賠償が補償されないことがあります。入院給付金が充実しており、付添看護保険等は、入院1日目から補償が開始され、日帰り入院にも対応しています。

○生活サポート総合補償制度

他人への損害賠償補償は、すべての加入者に補償されており、特に施設入所者等がその施設内で物損事故を起こした場合は、管理義務者の有無を問わず、補償されます。また、各補償も充実しており、弁護士費用・病気で死亡した時の補償がされるプランもあります。皆様のニーズに応じて、5つのプランから選ぶことができます。

互助制度・生活サポート総合補償制度 比較表

補償内容／補償項目		互助制度			生活サポート総合補償制度					
		条件／プラン	A	B	条件／プラン	A	B	C	D	E
年間掛金(円)			12,000	18,000		24,270	30,170	26,960	19,610	13,230
入院給付金	付添看護保険金 (1日につき)	保護者・家族 施設職員・家政婦	5,000 8,000	5,000 8,000	一律 (誰が付添っても) A・Dは入院4日目 B・Cは入院2日目から	8,000	8,000	—	3,000	—
	給付条件	4時間以上付添看護を受けた場合			3時間以上付添看護を受けた場合					
	差額ベット費用(1日につき)	入院1日目から	—	3,000 までの実費額	A・Dは入院4日目 B・Cは入院2日目から	3,000	3,000	—	3,000	—
	入院諸費用(1日につき)	入院1日目から	—	1,000	A・Dは入院4日目 B・Cは入院2日目から	1,000	1,000	4,000	1,000	—
	入院一時金(1日につき)		—	5,000	入院一時金 (1入院につき)	5,000	6,000	—	3,000	—
	免責日数／ 給付限度日数	新規加入後3か月 補償期間中	30日	30日	中途加入後30日 (病氣入院のみ) 補償期間中	30日	30日	30日	30日	—
	病気で死亡した時の補償		—	—	疾病葬祭費用保険金	100,000	100,000	—	—	—
傷害(ケガ)補償	死亡保険金		200万円	200万円	疾病葬祭費用保険金	100,000	100,000	500,000	100,000	500,000
	後遺障害保険金 (後遺障害の程度に応じて)		200万円 ～8万円	200万円 ～8万円	後遺障害保険金 (後遺障害の程度に応じて)	100,000 ～4,000	100,000 ～4,000	500,000 ～20,000	100,000 ～4,000	100,000 ～4,000
	入院保険金(1日につき)	180日限度	2,000	3,000	180日限度	3,000	5,000	5,000	3,000	2,000
	ケガによる手術保険金	入院中 入院中以外	20,000 10,000	30,000	入院中 入院中以外	30,000 15,000	50,000 25,000	50,000 25,000	30,000 15,000	20,000 10,000
	通院保険金(1日につき)	90日限度	—	1,000	90日限度	2,000	3,000	3,000	2,000	1,500
	個人賠償責任補償		5,000万円	5,000万円		1億円	3億円	3億円	1億円	1億円
施設等管理下財物復旧費用			—	—		50万円	50万円	50万円	50万円	50万円
弁護士費用	弁護士費用(1事故あたり)									
	損害賠償請求費用		—	—	1事故あたり支払限度額	—	200万円	200万円	—	—
	法律相談費用		—	—	1事故あたり支払限度額 1回1万円限度	—	5万円	5万円	—	—
	弁護接見費用		—	—	1事故あたり支払限度額	—	1万円	1万円	—	—
備 考					新規加入年齢制限					
					なし	64歳まで	なし	なし	なし	